

平成27年度大阪府立伯太高等学校第3回学校協議会 議事録

平成28年3月5日(土) 9:30～11:45

記録:楠本

協議会委員参加者

西田 芳正 (大阪府立大学人間社会学部教授)  
山野 正広 (和泉市総務部人権・男女参画室男女共同参画担当)  
松井 昭浩 (和泉市立和泉中学校校長)  
桑原 園子 (PTA会長)  
田中 恒子 (地域教育相談員)

- (1) 会長挨拶
- (2) 平成27年度学校教育自己診断の分析と評価
- (3) 平成28年度学校経営計画の概要
- (4) 平成27年度授業アンケートの結果報告
- (5) 本校生徒の状況
  - ① 進路指導部 (楠本首席)
  - ② 生徒指導部 (高山教諭)
  - ③ 人権教育委員会 (東首席)
- (6) 教員の授業その他の教育活動に関するご意見について
- (7) 協議
- (8) 会長の挨拶
- (9) 校長謝辞

[主な質問、意見等]

○は質問、 →は答え、 ●は意見、感想

- 生徒の卒業後の進路追跡調査はしているのか。
  - 就職した生徒については、5月ごろ、旧3年学年団で連絡を取り、状況を確認している。進学した生徒や未定の生徒については、担任によっては連絡を取っているが、組織的にはしていない。
- 生徒の卒業後の進路追跡調査をぜひしてほしい。生徒の卒業後の状況を知ることが在校生に対する進路指導の参考となる。在校生が卒業生から、進学先の学校のことや企業に入ってから状況を知ることができる機会があれば、非常に参考になるのではないかと。また、調査する期間については、なかなか難しいかもしれないが短期間でなく、長いスパンで調査したほうがよいと思う。卒業してから2年後、3年後、

4年後、どのような状況になっているのかわかれば、より参考になると思う。

- 専門学校希望者が増えたということだが、志望校決定に向けてどういう指導をしているのか。
  - 進路については高校3年間を見据えて、進路指導部、GS、学年団が協力して計画的に指導している。2年冬ぐらいから具体的にどういう進路にするか決めていくことになるが、その中で、専門学校の冊子を参考にどういう資格が取れるかや先輩たちがどこの専門学校に進学しているかなどを確認している。3年4月には、本校に各専門学校担当者に来てもらってジャンル別に説明をしてもらっている。以前は6月に来てもらっていたが、AO入試の利用者が増加し、入試が早くなってきたので4月に変更した。
- 知人の子どもが専門学校卒業後、専門学校で学んだこととまったく関係ない会社に就職した。専門学校の派手な宣伝のため、ちゃんと目的にあった専門学校を選べていないのではないか。
  - オープンキャンパスに行ったときに、専門学校側の宣伝に乗せられてその学校に決めてしまいがちなところがあるので、夏休み前に最低でも2~3校以上見学に行き、学ぶ内容、卒業後の進路先、就職率等を確認するよう指導している。
- アパレル系を希望する生徒はなかなかすぐに就職できないということだが、進路別ではどこに入るのか。(就職できなかった場合)
  - お店でアルバイトを続けていく中で正社員への道につながるようになるので、フリーター等に入る。
- 中退の状況はどんなものか。
  - 毎年減っている。特に1年生退学者は非常に少ない。
- 伯太高校卒業後、就職するにしても、この地域から他の地域に出て行かない地元志向が高いように思う。地元志向もいいが、この地域から出るということもこれからの時代、大切ではないかと思う。
- 伯太高校のいろいろな取り組みについては、その結果の報告を3年スパンではなく、長い状況での結果を載せたほうがよい。長い期間での取り組みの結果を元に検討していったほうが、これからの学校改善に役立つと思う。
- (教員の)研修は夏休みにはないのか。中学校では夏休み、お盆後にまとめて研修をやっている。
  - 研修については1年を通じて継続的にやっているが、夏休みは就職指導や応募前職場見学付き添い、2学期前の授業等があり、やっていない。
- 伯太高校ではこれから朝学習に取り組むということだが、中学校ではいろいろな学校で朝学習に取り組んでいるので、(生徒も慣れていて)高校でも取り組みやすいのではないか。また、習熟度別授業もこれから検討していくということだが、中学校でも習熟度別授業をやっている学校が多い。

- 応募前職場見学の（企業の）扱いは、大阪、東京では違うのか。
  - 大阪では就職試験の事前選考として、応募前職場見学の内容を選考に入れてはいけないことになっているが、東京では応募前職場見学での評価を選考に入れてもよい、ということになっている。しかし、大阪でも就職試験のとき、面接で「応募前職場見学に参加したか」という質問があり、応募前職場見学に参加するのが当然、という雰囲気があるような企業が増えてきた。このような傾向なので、7月になって求人票が来てからどの企業に応募前職場見学の申し込みをするか、がとても重要である。生徒が真剣に考え、検討し、決定するよう気持ちを高めるために、進路指導部、担任を中心に、きめ細かく時間をかけて指導している。7月下旬の応募前職場見学の申し込み締め切りまで、担任、進路指導部は非常に忙しい。
- 進路（進学）を決める上で、各学校はいいことばかり言うので、実際のところを知ることが必要ではないか。そういう意味で、卒業生に来てもらってその学校の話をしてもらうことが大切ではないか。
  - 実際、進路行事等で卒業生から在校生に話をしてもらっている。
- 気になる生徒の情報交換は大事だと思うが、その意識は先生方にちゃんと入っているのか。また、活用はできているのか。
  - 1学期初めに学年ごとに日を替えて、ていねいに時間をかけて情報交換をしているので、その意識は先生方にちゃんと入っており、それを元にした生徒対応をしている。新入生については、合格後、すべての中学校に行き、その生徒の状況を聞き取っている。
- 事務室のほうで、生徒の家庭の状況はわかるのか。
  - 経済状況については、授業料免除等ある程度のことにはわかる。でもその情報を先生方にすべて知らせるようにはなっていない。
- 中学校で就学支援を受けた生徒の割合は多いのか。
  - はっきりと調べていないが、かなり多いのではないかと思う。
- 生徒の経済状況等、いろいろなことを知って、高校生活に生かすことが大事だと思う。